

用語解説（「食品の安全性に関する用語集」（食品安全委員会）等より抜粋）

閾値（いきち・しきいち） Threshold

毒性評価において、ある物質が一定量までは毒性を示さないが、その量を超えると毒性を示すとき、その値を閾値という。

遺伝毒性 Genotoxicity

物質が直接的又は間接的に DNA に変化を与える性質のこと。

遺伝毒性発がん物質 Genotoxic Carcinogen

遺伝毒性発がん物質とは、当該物質又はその代謝物が DNA に直接作用することにより遺伝子突然変異又は染色体異常誘発性を示し、当該遺伝毒性に係る作用が発がん機序の一部であると考えられるものをいう。

（添加物に関する食品健康影響評価指針 P6 脚注 3）

加工助剤

食品の加工の際に使われる食品添加物のうち、次の条件のいずれかに合うものをいう。

- 1) 最終的に食品として包装する前に食品から除去されるもの
 - 2) 食品中に通常存在する成分に変えられ、かつ、その成分の量が食品中に通常存在する量を有意に増加させないもの
 - 3) 最終食品中に、ごく僅かなレベルでしか存在せず、その食品に影響を及ぼさないもの
- （添加物に関する食品健康影響評価指針 P20 脚注 9）

非遺伝毒性発がん物質 Non-genotoxic Carcinogen

変異原性は示さないが、種々の作用により細胞増殖を誘発し、プロモーション作用を示すことで、発がんを引き起こす物質をいう。

変異原性（狭義の遺伝毒性） Mutagenicity

DNA や染色体に突然変異を引き起こす物理的、化学的、生物学的な作用をもたらす性質のこと。DNA に直接的又は間接的に変異をもたらす、細胞又は個体に影響を与える性質。

ベンチマークドーズ BMD : Benchmark Dose

ある有害影響の発現率（発生頻度）又はある生物学的な影響に関する測定値について、バックグラウンド反応に比して一定の反応量の変化（BMR）をもたらす化学物質等のばく露量。用量反応関係に数理モデルを当てはめて得られた用量反応曲線を基に算出される。

BMDL : Benchmark Dose Lower Confidence Limit

BMD の信頼区間の下限值。通常、BMD の 90%信頼区間（片側信頼区間としては 95%信頼区間）の下限值が BMDL として用いられる。

なお、同信頼区間の上限値は Benchmark Dose Upper Confidence Limit: BMDU と呼ばれる。

LOAEL (最小毒性量) Lowest-Observed-Adverse-Effect Level

ある物質について何段階かの異なる投与量を用いて行われた反復毒性試験、生殖発生毒性試験等の毒性試験において、毒性学的な有害影響が認められた最小投与量のこと。

MOE (ばく露マージン (ばく露幅)) Margin of Exposure

毒性試験等で得られた無毒性量 (NOAEL)、最小毒性量 (LOAEL)、BMDL (Benchmark Dose Lower Confidence Limit) 等のハザードの毒性に関する評価値を、実際のヒトのばく露量 (摂取量) あるいは推定摂取量で割った値。リスク管理の優先付けを行う手段として用いられることがある。一般に、遺伝毒性発がん物質の場合は概ね 1 万未満、それ以外の場合 (例: 神経毒性物質) は概ね 100 未満であると、低減対策を実施する必要性が高いと解釈される。